

「シナガワ・ソバ・マードーズ品川蕎麦殺人事件 紹介文」

岡和田晃

『エクリップス・フェイズ』日本語版翻訳監修者の朱鷺田祐介による新作「品川蕎麦マードーズ」をお届けしたい。

これは朱鷺田祐介のユーモアSF「ミートハブ・マードーズ あるいは、肉でいつぱいの宇宙（そら）」、「ウィップラッシュ・マードーズ 殺人鬼はどこにいる?」、「リメンブランズ・マードーズ 〜最後の酒杯〜」の系譜に連なる第4作だが、シリーズのなかではもっとも大胆な切り口の作品だ。というのも、本作は「2015年12月の日本の風景」を扱っているのである！

これまで「SF Prologue Wave」では40本以上の『エクリップス・フェイズ』シェアードワールド作品が掲載されてきたが、なかでも本作は、異色作品の一つといえる。現代の品川近辺の様子が詳細に活写されるだけではなく、村上春樹や西村賢太の小説が示唆され、著者が偏愛を隠さない『孤独のグルメ』ばりに力が入った食事描写が続くからだ。

しかしながら、これらの光景はXPがどのようなりアリティを提供するのかをシミュレーションしたものであることを忘れてはならない。そのうえで、ジョン・ダンビルものの連作の文脈で捉えれば、いっそう「味わい深く」本作を堪能できるだろう。

朱鷺田祐介は、「Role&Roll」Vol.137からは『シャドウラン』のワールドガイド「ストーム・フロント」の連載を開始。今年も精力的な活動を続けている。